

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科			理学療法士学科	科 目 区 分		専門基礎分野	授業の方法	講義	
科 目 名			内科学		必修/選択の別		必修	授業時数(単位数)	46 (2) 時間(単位)
対 象 学 年			1年		学期及び曜時限		後期	教室名	301
担 当 教 員			荒木将平	実務経験とその関連資格	理学療法士として回復期病院、介護老人保健施設に勤務経験あり。臨床実習指導者の経験もある。				
《授業科目における学習内容》									
理学療法を实践する上で必須となる内科的疾患の包括的な理解を目的とする。対象は呼吸器、循環器、代謝、内分泌、消化器、腎・泌尿器系にわたる。各疾患の原因、病態生理、主要な症状、検査・診断、予後、そして標準的な治療法と治療過程について学習する。特に、各疾患が身体機能に与える影響と、理学療法実施時におけるリスク管理(禁忌・注意事項)に焦点を当てる。これにより、安全かつ効果的な理学療法を立案・実践するための医学的基礎知識を確立する。									
《成績評価の方法と基準》									
出席、課題提出状況、筆記試験で総合的に評価する									
《使用教材(教科書)及び参考図書》									
標準理学療法学・作業療法学[専門基礎分野]内科学 第5版 配布資料									
《授業外における学習方法》									
テキストを読んで予習・復習をする。授業内容をまとめる。									
《履修に当たっての留意点》									
授業の方法		内 容				使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容		
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	・内科学を学ぶ目的と理学療法との関連性を理解する。 ・基本的な診察手技の概要を説明できる。			配布資料	シラバス全体に目を通し、一年間の学習の流れを把握する。		
		各コマにおける授業予定	内科学総論□						
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	・呼吸のメカニズムを解剖・生理学的に説明できる。 ・呼吸音の聴診など、理学療法評価の基礎を理解する。			配布資料	正常な呼吸音と主な副雑音(ラ音)について、教科書や動画で確認する。		
		各コマにおける授業予定	呼吸器の構造と機能、診察						
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	・COPDと喘息の病態の違いを説明できる。 ・閉塞性換気障害に対する呼吸理学療法の目的を説明できる。			配布資料	口すばめ呼吸と腹式呼吸の具体的な方法を調べ、実践してみる。		
		各コマにおける授業予定	閉塞性換気障害						
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	・拘束性換気障害の病態と理学療法実施上の注意点を説明できる。			配布資料	間質性肺炎患者に対する理学療法のリスク管理(特に低酸素血症)について調べる。		
		各コマにおける授業予定	拘束性換気障害とその他						
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	・心臓のポンプ機能と刺激伝導系を説明できる。 ・正常な12誘導心電図の波形を判読できる。			配布資料	自身の脈拍と血圧を測定し、正常値と比較する。		
		各コマにおける授業予定	循環器の構造と機能、診察						
授業の方法		内 容				使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容		
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	・狭心症と心筋梗塞の違いを説明できる。 ・心筋梗塞後の理学療法における禁忌事項を列举できる。			配布資料	ニトログリセリンの作用機序と使用時の注意点について調べる。		
		各コマにおける授業予定	虚血性心疾患						
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	・心不全の病態を説明できる。 ・理学療法中に観察すべき心不全の増悪兆候を説明できる。			配布資料	NYHA分類の各クラスがどの程度の身体活動に対応するか具体例を考える。		
		各コマにおける授業予定	心不全						
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	・高血圧が全身に及ぼす影響を説明できる。 ・危険な不整脈の心電図波形を判別できる。			配布資料	ペースメーカーの基本機能と、理学療法実施時の注意点を調べる。		
		各コマにおける授業予定	高血圧と不整脈						
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	・ホルモンのフィードバック機構を説明できる。 ・甲状腺機能異常が身体機能に与える影響を説明できる。			配布資料	甲状腺機能異常の患者に対する理学療法時の注意点を考察する。		
		各コマにおける授業予定	内分泌系の機能と疾患						
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	・ホルモンのフィードバック機構を説明できる。 ・甲状腺機能異常が身体機能に与える影響を説明できる。			配布資料	甲状腺機能異常の患者に対する理学療法時の注意点を考察する。		
		各コマにおける授業予定	内分泌系の機能と疾患						

第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	・1型と2型糖尿病の病態の違いを説明できる。 ・低血糖症状とその対処法を説明できる。	配布資料	糖尿病の診断基準(空腹時血糖、HbA1cなど)の数値を覚える。
		各コマにおける授業予定	糖尿病(1):病態と診断、糖代謝のメカニズム ・1型・2型糖尿病の病		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	・糖尿病の主要な合併症を列挙し、その概要を説明できる。 ・糖尿病患者のフットケアの重要性を説明できる。	配布資料	糖尿病性神経障害を持つ患者に対する理学療法のリスク(感覚鈍麻、自律神経障害)を考察する。
		各コマにおける授業予定	糖尿病(2):合併症		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	・糖尿病に対する運動療法の効果を説明できる。 ・安全な運動療法のための注意点を列挙できる。	配布資料	糖尿病患者が運動を避けるべき時間帯や状況について調べる。
		各コマにおける授業予定	糖尿病と運動療法		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	・脂質異常症と動脈硬化の関係を説明できる。 ・骨粗鬆症患者の転倒予防の重要性を説明できる。	配布資料	骨粗鬆症患者に禁忌となる運動や動作について考察する。
		各コマにおける授業予定	脂質異常症と骨粗鬆症		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	・各消化器の主な機能を説明できる。 ・栄養素が消化・吸収される過程を説明できる。	配布資料	教科書で消化器全体の解剖図を確認し、各臓器の位置関係を把握する。
		各コマにおける授業予定	消化器の構造と機能		
授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第16回	講義形式	授業を通じての到達目標	・肝硬変の合併症(腹水、黄疸など)を説明できる。 ・消化器疾患患者の栄養状態と活動性の関係を考察する。	配布資料	肝硬変患者の理学療法における出血傾向への注意について調べる。
		各コマにおける授業予定	上部消化管・肝胆膵疾患		
第17回	講義形式	授業を通じての到達目標	・早期離床が術後合併症予防に繋がる理由を説明できる。	配布資料	腹部術後の患者に対する呼吸理学療法の重要性を考察する。
		各コマにおける授業予定	下部消化管疾患と術後リハ		
第18回	講義形式	授業を通じての到達目標	・腎臓の主要な機能(尿生成、血圧調整など)を列挙できる。 ・腎機能検査データの意味を説明できる。	配布資料	eGFRの値が理学療法の強度設定にどう影響するか考察する。
		各コマにおける授業予定	腎・泌尿器の構造と機能		
第19回	講義形式	授業を通じての到達目標	・急性・慢性の腎不全の違いを説明できる。 ・CKD患者の運動制限や注意点を説明できる。	配布資料	CKDのステージ分類と各ステージの定義について整理する。
		各コマにおける授業予定	腎不全		
第20回	講義形式	授業を通じての到達目標	・貧血が運動耐容能に及ぼす影響を説明できる。 ・関節リウマチの急性期・慢性期における理学療法の違いを説明できる。	配布資料	関節リウマチの関節保護の原則について調べる。
		各コマにおける授業予定	血液・免疫疾患		
第21回	講義形式	授業を通じての到達目標	・がんの標準治療の概要とその副作用を説明できる。 ・がんのリハビリテーションにおける多職種連携の重要性を理解する。	配布資料	化学療法の副作用である末梢神経障害に対する理学療法のアプローチを考察する。
		各コマにおける授業予定	悪性腫瘍(がん)		
第22回	講義形式	授業を通じての到達目標	・がんの標準治療の概要とその副作用を説明できる。 ・がんのリハビリテーションにおける多職種連携の重要性を理解する。	配布資料	化学療法の副作用である末梢神経障害に対する理学療法のアプローチを考察する。
		各コマにおける授業予定	悪性腫瘍(がん)		
第23回	講義形式	授業を通じての到達目標	・フレイル・サルコペニアの概念と評価法を説明できる。 ・複数の内部障害を持つ高齢者へのアプローチの複雑性を理解する。	配布資料	これまでの講義内容を統合し、複合的な疾患を持つ模擬症例のリスク管理とアプローチを考察する。
		各コマにおける授業予定	老年医学と総括		